

第 5 期  
事業報告書

平成15年1月1日 ▶ 平成15年12月31日



アンジェス MG株式会社

証券コード4563

### 日米でHGF遺伝子治療薬の臨床試験を開始へ



代表取締役社長 山田 英

**Q** 2003年度を振り返って、いかがでしょうか？

**A** 2003年度は後半になり国内で景気回復の兆しが見え始め、マザーズを中心に日本のバイオベンチャーの新規株式公開（IPO）が取りざたされ、老舗の米国でもバイオベンチャーのIPOが3年ぶりに再開した年でもありました。日米ともに遺伝子技術を応用して新薬開発などを手がけるバイオ企業に大きな社会的・経済的な注目が集まってきたことが背景にあります。今やバイオ産業は21世紀の日本の経済・技術・社会のあり方を変え、これを支えていく太く、大きな支柱の一つと位置付けられています。

そのような環境の中で、当社は日本のバイオベンチャーのフロントランナーとして高い評価を受けました。「HGF遺伝子治療薬の開発」では産官学連携推進功労の一環として文部科学大臣賞を受賞、また、世界Big 4の一つである監査法人デロイトトウシュートマトが主催し、まとめた技術系ベンチャー企業対象の企業ランキングでは、売上高成長率で日本2位、アジア太平洋地域で5位という評価を受けました。トーマツのランキングが発表されたのは、奇しくもアンジェスがIPOしてからちょうど1年目の2003年9月25日でした。今年は早々に中谷巖さん（多摩大学学長、ソニー株式会社取締役会議長）らが審査員を務める雑誌「経済界」の経済界大賞で異色企業賞を受賞しました。

こうした評価の背景には、アンジェスの残してきた業績があると思われます。この意味で、2003年度の業績を振り返りますと、HGF遺伝子治療薬に関しては、米国で4月にPAD（末梢性血管疾患）の第Ⅱ相臨床試験を開始、日本でも確認申請の了承、治験届の行政確認を経て12月に第Ⅲ相臨床試験を開始する目処が立つという画期的な業績を残し



ました。NFκBデコイオリゴに関しては、5月に血管再狭窄予防領域で株式会社グッドマンとの開発契約を締結、これを筆頭に薬理薬効の検討を精力的に行い、アトピー性皮膚炎などの対象疾患の重点化に目処をつけることができました。HVJエンベロープベクター（以下、HVJ-E非ウイルス性ベクター）に関しては、会社分割という新たなスキームを使い9月にHVJ-E非ウイルス性ベクターに関連する資源を子会社ジェノメディアに統合し、より本格的な事業展開を目指す体制を確立しました。さらに、10月には公募増資により58億円の資金調達を実施し、アンジェスの研究開発を資金面から支える体制を確立しました。過去において先行投資の段階にある赤字の会社が公募増資した例はなく、それまでのマザーズ市場での公募増資の最高額という実績を残しましたが、この資金調達の成功は、創薬系バイオベンチャーを支援する市場が日本にも立上ってきていることを象徴しており、今後の創薬系バイオ業界の動向を占うという点でも大きな歴史的意味合いを持っています。

Q

2004年度の抱負をお聞かせください。

A

これら2003年度の実績は、当社グループの社員の日頃の努力とともに、まさに投資家の皆様のご理解があってこそ残せたものですが、こうして社会に実績を残すことで、市場や社会が我々を見る眼は、より厳しくなってきていると感じています。この意味で、IPO及び資金調達を経た2004年度は、一段とアンジェスの会社としての業績が問われる年であり、よりチャレンジングな目標を掲げ、前年度以上の成果を達成していかなければならないと考えております。

2004年度の最重要業務目標は、HGF遺伝子治療薬プロジェクトのさらなる推進です。特にPADの日米臨床開発とIHD（虚血性心疾患）の日米IND申請は重要課題で、日米の境界を越えた協力関係のもと、時間の遅れは許されないと思っております。HGFのPADとIHDの両プロジェクトは、全て

の課題に優先します。また、今年はパーキンソン病など新しい疾患についても提携先を精力的に見つけ、HGF遺伝子治療薬の適応疾患を拡大させていく予定です。

NF $\kappa$ Bデコイオリゴでは、臨床開発に可及的速やかに移行させることを念頭に、アトピー性皮膚炎、血管再狭窄予防、関節リウマチ、変形性関節症、乾癬、喘息、DDS探索に優先順位をつけ、精力的に進めていく予定です。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、まさにビジネス展開が最優先事項です。遺伝子探索研究、DDS展開、いずれも研究開発の成果そのものが評価される段階になってきました。研究成果を見せ、協力していけるパートナーを確保することが肝心で、全社一丸となって当プロジェクトの推進を図ります。

研究開発はアンジェスの価値創造の根源であり、バイオベンチャーというビジネスの構造上、上市に至るまでの一定の間は赤字を覚悟し、研究開発に資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を傾注していくことは必須です。2004年度も、上記各プロジェクトを進めるための要員確保、新研究所の開設・移転、将来の収益確保につながる新規事業の開始、特許など知的財産権の保護、ITインフラ整備など、研究開発や事業分野の中では優先順位を付けつつ、積極的な投資を続けていきます。ただし、これらの投資には費用増が伴い、アンジェス自身の自己負担が増大するため、一方では、事業の集中と選択、事業・業務の見直しと効率運営の具現化、コスト削減努力、他方では新たな提携先の発掘による収益確保を図ってまいります。

以上に加え、2004年度は、欧米での調査・探索活動を強化しつつ、新規事業の展開・発展を積極的に進め、第4の柱になる製品・事業分野の確立を目指します。自社開発プロジェクトだけでは当社の将来を十分には担保できないと考え、開発後期段階にある製品など他社製品を導入することで事業の安定化を図っていきます。少しでも早く収益を上げる姿勢を投資家の皆様にもご理解頂ける努力をしたいと思います。

### 医薬品開発の状況

プロジェクト	対象分野	地域	開発段階	提携等
HGF遺伝子治療薬	末梢性血管疾患	日本	第Ⅲ相準備中	第一製薬株式会社
		米国	第Ⅱ相	
	虚血性心疾患	米国	第Ⅰ相準備中	
	パーキンソン		前臨床	未定
NF $\kappa$ Bデコイオリゴ	アトピー性皮膚炎		臨床準備中	未定
	乾癬		前臨床	未定
	関節リウマチ		臨床準備中	生化学工業株式会社
	変形性関節症		前臨床	
	血管再狭窄予防		臨床準備中	株式会社グッドマン

### 一般的な新薬開発のプロセスと期間

一般的に医薬品の開発は、新薬候補物質が決まるとまず動物試験など前臨床試験が実施され、有効性及び安全性などが確認されます。この前臨床試験を経て、実際にヒトに投与する臨床試験（治験）に入ります。

臨床試験は、通常、下記の通り第Ⅰ相、第Ⅱ相、第Ⅲ相に分かれて実施されます。医薬品を開発する製薬会社は、これら試験における新薬候補物質の有効性及び安全性の成績をもって、行政当局に新薬承認申請し、承認が得られた後に発売可能になります。

ただし、癌など重篤な疾患を対象とする場合には、必ずしも臨床試験の構成が下記の通りになる訳ではなく、より効率的な試験の構成が可能になる場合もあります。

プロセス	期間	内容
基礎研究	2～3年	新規物質の創製及び候補物質の絞り込み
前臨床試験	3～5年	実験動物を用いて、有効性及び安全性を確認する試験
臨床試験	3～7年	第Ⅰ相：少数健康人を対象にして、安全性及び薬物動態を確認する試験
		第Ⅱ相：少数患者を対象にして、有効性及び安全性を確認する試験
		第Ⅲ相：多数患者を対象にして、既存薬との比較により有効性及び安全性を確認する試験
申請・承認	1～2年	国（厚生労働省）による審査



# Main Project

## 主要プロジェクト

1

### HGF遺伝子治療薬

HGF (Hepatocyte Growth Factor、肝細胞増殖因子※1) は、肝臓の細胞を増やす因子として1984年に大阪大学の中村敏一教授により発見されました。最初は、肝臓の病気の治療薬として研究されていましたが、HGFの遺伝子を投与することで血管を新しく増やす治療法が1995年に大阪大学大学院の森下竜一客員教授により発明されました。HGF遺伝子治療薬は、血管が詰まり血流が悪くなっている虚血性疾患に対して、血管を新生するというこれまでにない治療薬です。

血管が詰まることにより生じる病気には、例えば、①糖尿病などにより足の血管が閉塞し、血液がうまく届かず壊死して最終的には足を切断しなければならなくなる末梢性血管疾患※2 (閉塞性動脈硬化症やパージャ病) や、②心臓の冠動脈の血流が悪くなって起こる虚血性心疾患※3 (狭心症や心筋梗塞) があります。これらの病気に対しては、重症になると、薬物療法のほか、バルーンカテーテル (カテーテルにより血管を通して動脈の形成を行う治療) やバイパス手術を施しますが、それでも十分に回復しない場合があります。HGF遺伝子治療薬は、こうした他に治療法がなく、足を切断せざるを得ない症例に対しても効果が期待され、注射という簡便な方法で血管を新生させ治療することを目指します。当社グループでは、まず、従来の治療法では十分に回復しない症例を対象に開発を進める方針です。

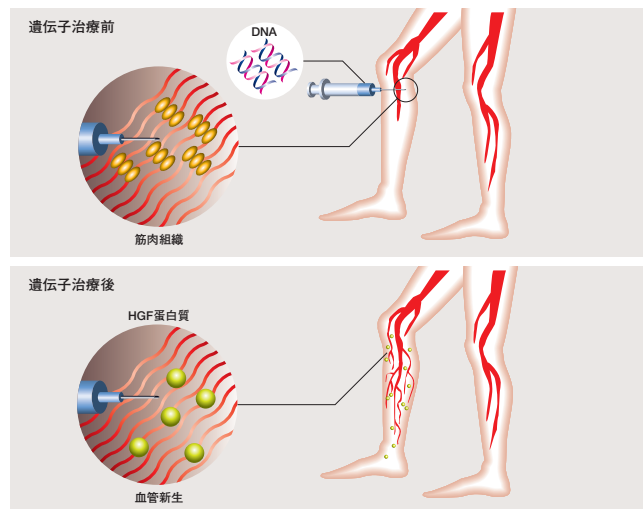
このような血管新生療法は、米国では、VEGF (Vascular Endothelial Growth Factor、血管内皮細胞増殖因子) やFGF (Fibroblast Growth Factor、線維芽細胞増殖因子) 等を用いた遺伝子治療の臨床試験が行われ、血流が回復して足の切断を免れた症例も報告されております。HGFは、これら競合の遺伝子治療薬より血管新生作用が強いことが動物実験で示されており、しかもVEGFで見られる浮腫の副作用が見られてないことから、有効性と安全性の両面で競合品と差別化できると考えています。

末梢性血管疾患分野については、米国で第Ⅱ相臨床試験を実施中で、さらに日本でも、2003年12月に多施設二重盲検臨床試験の治験届の行政確認が終了し、近く第Ⅲ相臨床試験として開

始する見込みです。虚血性心疾患分野についても、米国で第Ⅰ相臨床試験の準備を進めており、日本でも、2004年度内にも臨床試験を開始できるよう準備を進めております。

なお、HGF遺伝子治療薬の末梢性血管疾患及び虚血性心疾患分野については、第一製薬株式会社と販売提携しています。

### 注射によるHGF遺伝子治療 (末梢性血管疾患)



### 用語解説

※1 肝細胞増殖因子 (Hepatocyte Growth Factor: HGF)  
肝細胞から発見された増殖因子で、血管新生作用を有するほか、発生過程における器官形成や傷害に伴う組織・器官の再生において重要な役割を担います。

※2 末梢性血管疾患 (peripheral arterial disease)  
四肢の末梢血管が閉塞することにより、筋肉や皮膚組織が虚血状態に陥り、しびれ、冷感、間歇性跛行、安静時疼痛、下肢潰瘍などの症状を示します。閉塞性動脈硬化症やパージャ病があります。

※3 虚血性心疾患 (ischemic heart disease)  
心臓を養う動脈 (冠動脈) がある程度狭窄すると、労作時に十分な血液が流れず、胸苦しさや胸痛などの症状を示す狭心症や、冠動脈が完全閉塞し、心筋組織が虚血状態になる心筋梗塞があります。

## 2

## NF $\kappa$ Bデコイオリゴ

遺伝子医薬には大きく分けると二つの方法があります。一つは、HGF遺伝子治療薬のように遺伝子そのものを利用するもの、もう一つは核酸合成機で作成される人工遺伝子を利用するものです。後者は、遺伝子そのものではなく、遺伝子の構成成分の一部のみを使うため人工遺伝子と呼ばれたり、核酸からできているので核酸医薬と呼ばれたりしています。

デコイは、この核酸医薬の一種です。遺伝子は、転写因子がゲノムに着地してスイッチが入りますが、デコイは、そのゲノム上の転写因子結合部分と同じ配列を含む短い核酸(DNA)を人工的に合成したもので、体内に投与すると転写因子がゲノムに着地することを阻害して遺伝子の働きを抑えます。

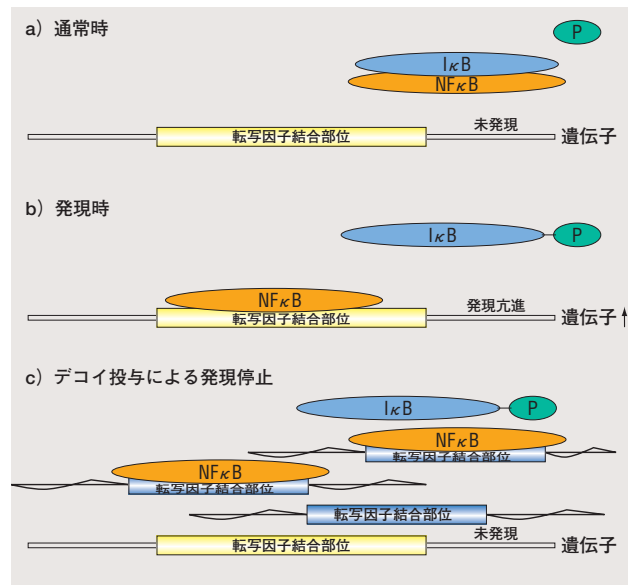
NF $\kappa$ Bは、免疫反応を強める遺伝子のスイッチである転写因子で、このNF $\kappa$ Bに対するデコイを作成することでアトピー性皮膚炎や関節リウマチなど過剰な免疫反応を原因とする病気の治療を目指します。この治療法は、1995年に大阪大学大学院の森下竜一客員教授により発明されました。現在、当社では、NF $\kappa$ Bデコイオリゴの有効性や安全性などを動物実験等で確認する前臨床試験を実施しております。

なお、NF $\kappa$ Bデコイオリゴについては、関節リウマチ及び変形性関節症分野において生化学工業株式会社と共同研究契約を締結しているほか、血管再狭窄予防<sup>※4</sup>分野において株式会社グッドマンと業務提携をしています。

### 用語解説

※4 血管再狭窄予防  
(血管の) 狭窄とは、血管が詰まり狭くなってしまうことです。動脈硬化により生じる冠状動脈などの狭窄は、主にバルーンカテーテルを用いた血管拡張術(いわゆる風船療法)により狭窄部位を広げる治療法が用いられています。しかしながら、この手法は、30~40%の症例において、(再度血管の詰まる)再狭窄が生じるという欠点があり、血管拡張術後の再狭窄を予防できる製品の開発が期待されています。

### NF $\kappa$ Bデコイオリゴの作用原理



## 3

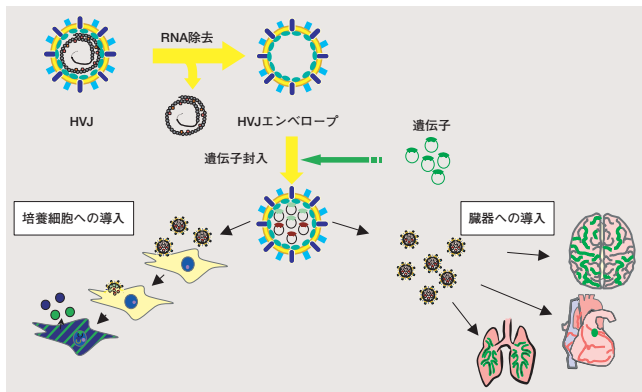
## HVJエンベロップベクター

遺伝子が体内でうまく働くためには、細胞の中に入らなければなりません。遺伝子は、そのまま細胞に近づくことはできても、細胞の中に入っていくことはできません。遺伝子治療薬には、細胞の膜を突破し、細胞の中に遺伝子を運ぶ役目をする優れたベクター（運び屋）が必要になります。

HVJ（Hemagglutinating Virus of Japan、別名センダイウイルス）は、1950年代に日本で発見されたウイルスです。このHVJの中のゲノムを全て除去し、膜のみを用いるベクターがHVJエンベロップベクター（以下、HVJ-E非ウイルス性ベクター）です。このベクターの製造方法が、2000年に大阪大学大学院の金田安史教授により発明されました。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞を融合（細胞融合）する作用があることから、遺伝子を細胞に導入する効率が高く、しかもウイルスゲノムが全て除去されているため、ヒトに対する安全性も高いベクターです。遺伝子治療に用いるベクターは、主にウイルス性ベクターと非ウイルス性ベクターに分けられます。ウイルスの感染能力を利用するウイルス性ベクターは、導入効率は高いが安全性の面に問題があり、脂質材料などによる非ウイルス性ベクターは、安全性は高いものの導入効率の面に

## HVJ-E非ウイルス性ベクターによる遺伝子導入システム



問題がありました。HVJ-E非ウイルス性ベクターは既存ベクターの持つこれらの問題点が解決されているため、汎用性が高く、世界をリードするベクターになる可能性があります。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、遺伝子治療薬への応用のほか、核酸医薬や蛋白医薬、さらに低分子化合物など従来からある医薬品の薬剤吸収を向上するドラッグデリバリーシステム（DDS）として有効である可能性があります。当社グループでは、先端医薬品とともに、まずは全身投与では副作用が強い抗癌剤に応用することで、患部に効率的な送達ができる薬剤の開発を行う予定です。

また、HVJ-E非ウイルス性ベクターは、創薬や診断薬に利用できる新規有用遺伝子を発見する研究に用いることができます。ベクターにより調べたい遺伝子を細胞や臓器に導入し、実際にどのような影響が出るかを観察することで新規有用遺伝子を見つけることができます。HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞融合作用があることから、高い効率で、しかも迅速に遺伝子を運び込むことができます。さらに、ウイルスのゲノムが全て除去されていることから、ヒトに対する安全性も高く、一度に大量の遺伝子を封入することもできます。このため、HVJ-E非ウイルス性ベクターは、新規遺伝子探索のツールとしても有力な手段です。

HVJ-E非ウイルス性ベクターについては、遺伝子治療やDDSとして応用する研究開発を実施しています。その一環として池田ラボにおいて、2002年11月、GMP（Good Manufacturing Practice、医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準）に準拠したHVJ-E非ウイルス性ベクター製造用パイロットプラントを完成しました。

また、2002年7月には、HVJ-E非ウイルス性ベクターにより治療用及び診断用遺伝子を発見することを目的として、当社は子会社ジェノメディア（設立当初の当社出資比率71.8%）を設立しました。さらに、2003年9月に会社分割制度を用いてグループ内の組織再編を行い、グループ内（当社及びジェノメディア）に分散するHVJ-E非ウイルス性ベクター事業に関する人材、資産、知的財産権をジェノメディアに集約化することにより、経営資源の効率化と意思決定の迅速化を図り、同事業の一層の強化を目指しております。

# Consolidated Financial Statements

## 連結財務諸表

### ●連結貸借対照表

科目	当期	前期
	(平成15年12月31日現在)	(平成14年12月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	10,596,116	5,298,487
現金及び預金	6,072,021	3,829,508
売掛金	84,765	157,948
有価証券	2,298,748	—
たな卸資産	530,167	798,148
前渡金	935,523	360,514
前払費用	76,183	63,477
未収入金	—	12,757
立替金	96,840	73,490
信託受益権	500,000	—
その他	1,982	2,982
貸倒引当金	△116	△341
固定資産	378,007	334,787
有形固定資産	198,059	202,714
建物	106,194	101,519
機械装置	18,417	31,638
工具器具備品	73,447	63,048
建設仮勘定	—	6,507
無形固定資産	126,455	85,821
連結調整勘定	20,361	—
特許権	98,645	83,411
その他	7,448	2,409
投資その他の資産	53,492	46,251
投資有価証券	1,000	—
敷金保証金	41,898	40,895
その他	10,594	5,356
資産合計	10,974,124	5,633,275

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(平成15年12月31日現在)	(平成14年12月31日現在)
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,493,753	1,146,983
買掛金	107,939	195,663
未払金	60,354	151,317
未払費用	5,413	5,692
未払法人税等	5,458	2,594
未払消費税等	34,920	—
前受金	1,272,617	787,573
預り金	7,049	3,643
繰延税金負債	—	499
負債合計	1,493,753	1,146,983
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	26,037	8,705
<b>資本の部</b>		
資本金	—	1,802,547
資本準備金	—	3,099,940
欠損金	—	420,693
為替換算調整勘定	—	△4,208
資本合計	—	4,477,585
資本金	4,784,341	—
資本剰余金	6,081,734	—
利益剰余金	△1,399,134	—
その他有価証券評価差額金	△1,957	—
為替換算調整勘定	△10,651	—
資本合計	9,454,332	—
負債、少数株主持分及び資本合計	10,974,124	5,633,275



## ●連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(自 平成15年1月1日 至 平成15年12月31日)	(自 平成14年1月1日 至 平成14年12月31日)
事業収益	2,453,440	1,794,715
事業費用	3,401,719	2,308,437
研究開発費	2,807,757	1,726,473
販売費及び一般管理費	593,962	581,963
営業損失	948,278	513,721
営業外収益	31,965	7,302
受取利息	605	296
為替差益	9,502	5,996
補助金収入	19,929	—
雑収入	1,928	1,009
営業外費用	37,634	48,988
支払利息	—	8,967
新株発行費償却	35,925	38,981
雑損失	1,709	1,040
経常損失	953,947	555,407
特別利益	224	404
貸倒引当金戻入益	224	404
特別損失	24,730	3,866
固定資産除却損	188	3,866
前渡金処理損失	24,541	—
税金等調整前当期純損失	978,452	558,869
法人税・住民税及び事業税	4,571	3,212
法人税等調整額	△482	521
少数株主損失	4,100	2,594
当期純損失	978,440	560,008

## ●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(自 平成15年1月1日 至 平成15年12月31日)	(自 平成14年1月1日 至 平成14年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△689,062	△731,505
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,484,790	△241,593
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,927,663	3,506,737
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11,296	△3,544
現金及び現金同等物の増加額	742,513	2,530,094
現金及び現金同等物の期首残高	3,829,508	1,299,414
現金及び現金同等物の期末残高	4,572,021	3,829,508

## ●連結剰余金計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(自 平成15年1月1日 至 平成15年12月31日)	(自 平成14年1月1日 至 平成14年12月31日)
連結剰余金期首残高	—	139,314
当期純損失	—	560,008
欠損金期末残高	—	420,693
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	3,099,940	—
資本剰余金増加高	2,981,794	—
増資による新株式の発行	2,930,147	—
ストックオプション行使による新株式の発行	51,647	—
資本剰余金期末残高	6,081,734	—
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	△420,693	—
利益剰余金減少高	978,440	—
当期純損失	978,440	—
利益剰余金期末残高	△1,399,134	—

## 単体決算の概要

### ●要約貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(平成15年12月31日現在)	(平成14年12月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	10,387,059	5,232,627
固定資産	442,722	413,631
資産合計	10,829,781	5,646,259
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,368,157	1,159,334
負債合計	1,368,157	1,159,334
<b>資本の部</b>		
資本金	—	1,802,547
資本準備金	—	3,099,940
欠損金	—	415,563
資本合計	—	4,486,924
資本剰余金	4,784,341	—
資本剰余金	6,081,734	—
利益剰余金	△1,402,493	—
その他有価証券評価差額金	△1,957	—
資本合計	9,461,624	—
負債資本合計	10,829,781	5,646,259

### ●要約損益計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(自 平成15年1月1日 至 平成15年12月31日)	(自 平成14年1月1日 至 平成14年12月31日)
事業収益	2,452,246	1,794,715
事業費用	3,408,020	2,303,701
営業損失	955,774	508,985
営業外収益	34,586	4,743
営業外費用	37,634	48,171
経常損失	958,821	552,414
特別利益	226	404
特別損失	24,541	3,836
税引前当期純損失	983,136	555,845
法人税、住民税及び事業税	3,794	3,014
当期純損失	986,930	558,859
前期繰越利益又は 前期繰越損失(△)	△415,563	143,296
当期末処理損失	1,402,493	415,563

### ●損失処理計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(平成16年3月30日承認)	(平成15年3月27日承認)
当期末処理損失	1,402,493	415,563
次期繰越損失	1,402,493	415,563

# Corporate Data

## 会社概要 (平成15年12月31日現在)

会社名：アンジェス エムジー株式会社

(英文名：AnGes MG, Inc.)

(注) 平成16年3月30日開催の第5期定時株主総会の決議により、平成16年3月31日をもって当社商号を「アンジェス エムジー株式会社」から「アンジェス MG株式会社」に変更しております。

会社設立：平成11年12月

決算期：12月31日

資本金：4,784百万円

従業員数：51名

## ●事業所

本社

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町一丁目4番2号

千里ライフサイエンスセンタービル10階

池田ラボ

〒563-8577 大阪府池田市緑丘一丁目8番31号

東京支社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目20番14号 三田鈴木ビル5階



# Stock Information

## 株式の状況 (平成15年12月31日現在)

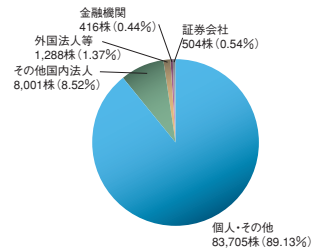
会社が発行する株式の総数	246,976株
発行済株式の総数	93,914株
株主数	15,795名

## ●大株主の状況

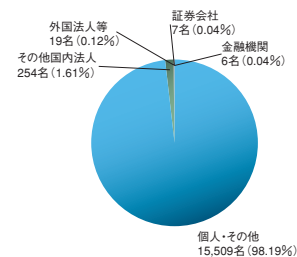
株主名	持株数	議決権比率
森下 竜一	12,570株	13.40%
中村 敏一	7,000株	7.46%
有限会社イー・シー・エス	5,113株	5.45%
バイオフロンティア・グローバル投資事業組合 業務執行組合員 株式会社バイオフロンティアパートナーズ	3,340株	3.56%
森下 翔太	2,400株	2.56%
森下 真弓	2,400株	2.56%
小谷 均	1,985株	2.12%
富田 憲介	1,965株	2.09%
小谷 希美子	1,600株	1.71%
坂田 三和子	1,500株	1.60%

## ●所有区分別 株式分布状況

株式数 合計 93,914株



株主数 合計 15,795名



## ●役員

代表取締役社長	山田 英
取締役副社長	小谷 均
取締役	中村 憲史
取締役	森下 竜一
取締役	榎 史朗
常勤監査役	池田 勉
監査役	遠山 伸次
監査役	菱田 忠士

## ●アンジェス エムジーグループ

会社名	資本金 主要な事業内容	当社議決権比率
アンジェス インク	100千米ドル 米国での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
アンジェス ユーロ リミテッド	50千英ポンド 欧州での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
ジェノメディア株式会社	90,000千円 遺伝子治療用ベクター及びドラッグデリバリーシステムの研究開発、新規有用遺伝子及び分子の探索、遺伝子機能解析	77.6%



●株主メモ

決 算 期 12月31日  
定時株主総会 3月中  
基 準 日 12月31日(利益配当金) 6月30日(中間配当金)  
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号  
UFJ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話03-5683-5111 (代表)  
同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
野村證券株式会社 本店及び全国各支店  
公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞  
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス  
[http://www.anges-mg.com/ir\\_financial.htm](http://www.anges-mg.com/ir_financial.htm)

ホームページを  
ご覧ください。

最新のニュースリリースやIR資料  
などを掲載しております。  
ぜひご覧ください。

ホームページアドレス  
<http://www.anges-mg.com>



この事業報告書に関するお問い合わせ先  
東京支社 03-5730-2753